

令和6年度全国安全週間の実施について

富岡甘楽広域消防本部では、全国安全週間中に「事故0」を目指して、具体的実施事項等を示し、労働災害防止活動の推進を図り、安全に対する職場での意識と行動が、これまで以上に組みこめるよう以下の事項を実施いたしました。

1 危険予知訓練の実施

危険予知訓練とは、現場や訓練の中に潜む危険要因と、それが引き起こす現象を、イラストシートにしたものを使って、小集団で話し合い、考え合い、分かり合って、危険なポイントや重点実施項目を指差呼称で確認し解決する訓練です。

危険予知訓練は、危険（キケン、Kiken）の **K**、予知（ヨチ、Yochi）の **Y**、トレーニング（トレーニング、Training）の **T** をとって、KYT ともいいます。

KYT（危険予知訓練）

・4ラウンド KYT

- 1R 現状把握
- 2R 本質追究
- 3R 対策樹立
- 4R 目標設定

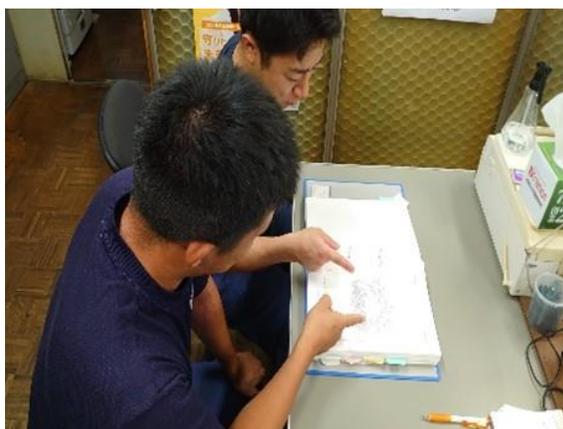
スローガン

「○○○○ヨシ！」



・指差呼称

- 眼 確認する事をしっかり見る
- 口 大きな声でしっかりと発音する
- 耳 自分の声を聴く
- 指 確認する事をしっかり指す



危険予知訓練を実施することにより、隠れた危険を再認識することができました。

2 ヒヤリハット事例検討

ヒヤリハットとは、思いがけない出来事に「ヒヤリ」としたり、事故寸前のミスに「ハッ」としたりすることが名前の由来です。「1件の重大事故の背後には29件の軽微な事故があり、さらにその背後には300件の異常が存在する」というもので、この300件の異常こそが「ヒヤリハット」です。

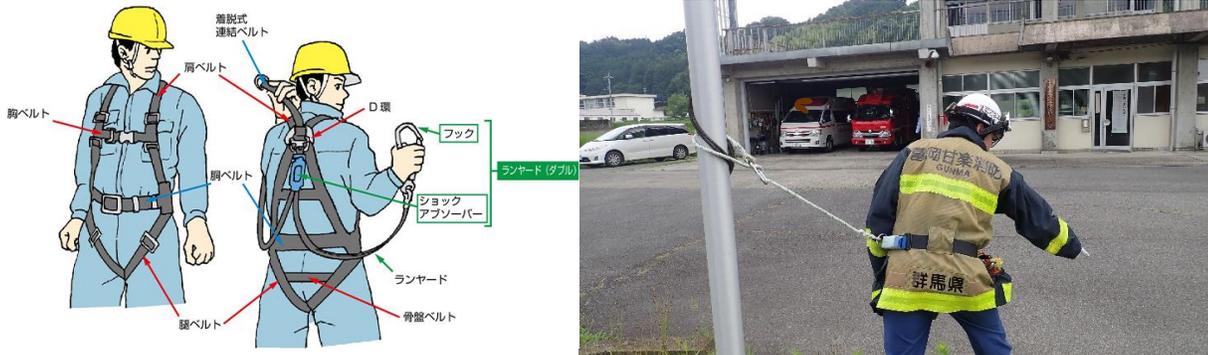
ヒヤリハット事例検証では現場での注意点や改善策などを話し合うことにより、意識の向上が図れました。

訓練時に異常行動があった際は訓練を中断し、異常行動を全体にフィードバックしました。実際にやってみせ、やらせて見せて、異常の存在を説明し検証することにより安全意識の向上が図れました。

災害事例の情報提供、検討を行い自分事にさせることで、重大事故、軽微な事故、異常の存在を確認する事ができました。

3 墜落制止用器具取扱研修

フルーハーネス型墜落制止用器具とは墜落による死亡災害をなくすため、2022年1月2日から6.75m(建設業では5m)以上の高所では着装が義務化となっているものです。フルーハーネス型墜落制止用器具の他にも命綱として、ショックアブソーバーやフック、ランヤードなど高所作業を行う際には適正な道具の使用が必要となっています。



研修を行うことにより、墜落制止用器具の適切な着装方法、使用方法及び注意点が再確認できるとともに、フックの取り付け位置やランヤードの使用方法が理解できました。

4 チェーンソーを使用する際の安全保護具取扱研修

適切な安全保護具の着装及び倒木の切断方法の研修を実施し、訓練で丸太の切断を安全に行うことができました。

5 個人装備や使用資機材の点検

個人装備の破損状況を点検し、現場での危険要素を事前に排除できました。また、災害用に準備している土のうが劣化していたため、土のうの詰め替え作業を行いました。個人装備や使用資機材の点検することにより、現場活動や訓練に対する職員の安全意識が向上しました。

6 敷地内及び庁舎の危険箇所総点検

新庁舎への移転に伴い庁舎から主要道路までの危険箇所を確認し、出動時の事故防止を図ることができました。

また、危険物を取り扱う自家用給油取扱所の点検や清掃を行いました。研修を行い、正しい利用方法と維持管理の確認及び危険物を取り扱う際の注意事項の再確認ができ、維持管理の徹底を図ることができました。

安全パトロールチェックリストを作り、敷地内の4S活動(整理、整頓、清掃、清潔)を実施し、出動時のけがや事故のリスクをなくすことができました。

7 暑熱順化訓練及び熱中症研修

暑熱順化訓練とは、徐々に体を暑さに順応させ、体温調節を上手くできるようにする訓練で、同じ暑さであっても熱中症になりにくい体になっていきます。

熱中症研修を実施するとともに、暑熱順化訓練前には職員の体調、熱中症警戒アラート及び暑さ指数を把握し、適宜水分や塩分補給、休憩を入れるなどの熱中症対策を講じ、隊員の活動後の疲労を最小限に抑え、体調管理ができました。暑熱純化訓練を実施したことで、夏場の出動において熱中症のリスクを減らすことができました。

8 無人航空機の飛行に関する関係法令及び消防活動におけるヘリコプターの安全な活用方法の研修

当組合の例規や航空法を再確認することにより、安全かつ効率的にドローンを運用するための意識の啓発が図れました。また、防災ヘリコプター及び警察ヘリコプターと連携して活動する際の注意点について研修を実施し、安全な活動を行うための知識を習得できました。

9 令和6年度全国安全週間のスローガンの掲示

庁舎内に令和6年度全国安全週間のスローガン「危険に気付くあなたの目　そして摘み取る危険の芽　みんなで築く職場の安全」を掲示し、安全意識の高揚を図りました。

10 まとめ

全国安全週間中にあらためて各研修等を実施することにより、安全意識の高揚や職員自身が事故について自分事と捉えて職務に当たれるようになりました。

今後も「事故0」を合言葉に職員自身が安全意識をもって職務にあたります。